

## 今日のトピック ASEAN4の金融政策（2017年3月）

# 各国とも政策金利を据え置き、低金利が継続しよう

### ポイント1 3月に政策決定会合開催

■ 東南アジア諸国連合（ASEAN）の主要4カ国（インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン）では、それぞれ17年3月に金融政策決定会合が開かれました。市場予想通り、各国とも現状の金融政策が維持されました。

### ポイント2 各国とも政策金利据え置き

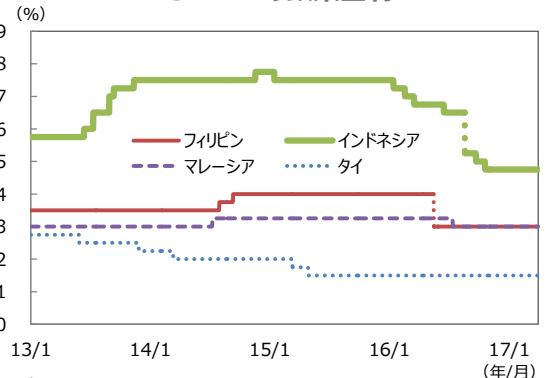
■ マレーシア中央銀行は3月2日、政策金利を3.0%に据え置きました。前半に消費者物価が上昇するものの、その後鈍化する見通しとしています。

■ インドネシア中央銀行は3月16日、政策金利を4.75%で据え置きました。据え置きは5カ月連続です。原油価格の上昇などによるインフレ圧力や通貨安を伴う資金流出を警戒していますが、足元で通貨ルピアは落ち着いた動きとなっています。

■ フィリピン中央銀行は3月23日、政策金利を3.0%に据え置きました。税制改革の影響などからインフレの上振れリスクを指摘しています。

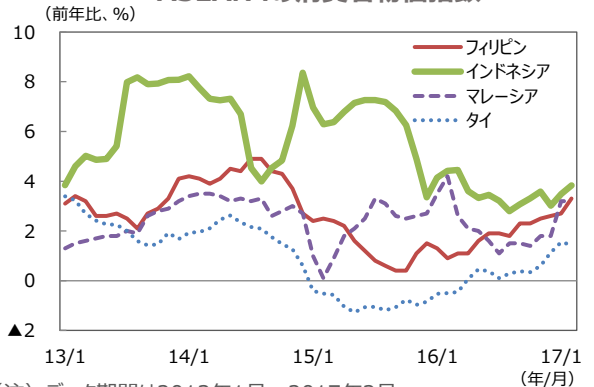
■ タイ中央銀行は3月29日、政策金利を1.5%に据え置きました。また、17年のGDP成長率を上方修正する一方、インフレ見通しを引き下げました。

ASEAN4の政策金利



(注) データ期間は2013年1月1日～2017年3月29日。  
フィリピンは2016年6月に、インドネシアは2016年8月に政策金利の枠組みを変更。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ASEAN4の消費者物価指数



(注) データ期間は2013年1月～2017年2月。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 金融政策は中立姿勢が続く

■ 各国の中央銀行は、金融政策をそれまでの緩和姿勢から中立姿勢へ切り替えていると思われます。景気が好調に推移していることに加え、16年11月の米大統領選挙以降ドル高が進行したことにより、通貨安に伴う資金流出への警戒があると見られます。原油価格の上昇などからインフレ圧力がかかることもあり、各国の中央銀行は当面金融政策を据え置くことが見込まれます。フィリピンについてはインフレの高まりから先行き小幅の利上げが行われる可能性があります。

### ここもチェック! 2017年3月15日 業績の上振れが見込まれるアジア・オセアニア株式市場 2017年3月15日 最近の指標から見るインド経済（2017年3月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。